

令和3年3月1日

上島町教育委員会
教育長 高橋 典子 様

上島町立弓削中学校
校長 山口 正寿 印

令和2年度 学校関係者評価報告書

- 1 開催日時 令和3年2月4日（木） 19:00～20:30
- 2 参加者 学校運営協議会委員 16名
- 3 協議内容 評価結果・改善方策等、学校側の説明を聞いてからの意見交換・感想

(A委員)

読書について、「読みなさい」では頭に入らず、勧めるのは難しい。マンガはよく読むのでマンガなど興味のあるものから入って、ステップアップを図ってはどうか。本を「読ませられる」意識では習慣がつかない。「好きになる」のは難しいが、上手にアドバイスしてほしい。

(B委員)

朝の読書の時間には、集中して読んでいるようである。

(C委員)

小学校は保護者の意見や感想が示されているが、中学校には示されていない。

(D委員)

中学校でも意見・感想は集めているので、後日報告する。

(A委員)

小・中学校とも親は子どもがどの程度の位置で勉強できているか把握できているのだろうか。

(D委員)

授業については参観日、基礎・基本についてはテスト等の点数くらいしかない。学校関係者評価も中学校は4段階、小学校は3段階で行っており、中間的な層がどちら側を選ぶかで違ってくる。通知表（評定）でも小学校は3段階、中学校は5段階で、真ん中の「3」でも、4に近いか2に近いかで差は大きい。

(A委員)

親が学力について評価するのは難しいのではないだろうか。なぜ、その評定になったかの説明はしてないのでは。

(D委員)

4または5項目の観点をABCでつけている。そこから判断できる。

(E委員)

中学校はテストの順位を知らせている。小学校の3段階の「2」の評価は立ち位置が分かりにくい。「ふつうかな」というイメージであるが、幅が広い。ここにギャップがある。小学校・中学校とも最重要課題としているのは何か。まず課題は何かをはっきりさせ、解決するためにどうするか、みんなが意識して学校教育に取り組むことが大事。大きな課題をどう解決していくかはっきりさせていく。

(D委員)

学校に来にくい生徒についてが最重要課題である。他の教職員とも共通理解を図っている。

(E委員)

コミュニティ・スクールの基本は地域とのつながりであり、地域で何ができるか、何が協力できるか考える。このことを地域が理解することが必要。不登校への批判ばかりでなく本質を理解すること。

(F委員)

小・中学校ともに肯定的な4と3の意見が多くなっているようだが、より4が多くなるよう努めてほしい。

(D委員)

より4が多くなるよう努力していきます。